令和6年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
49	川崎市立下小田中小学校	八幡 博子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
共に学び、明日が楽しみになる学校 根・智・和 ・命を大切にし進んで取り組む子 ・主体的・対話的に学ぶ子 ・互いを認め合い思いやる子	○自己を見つめ、自己と他者の命と存在を大切にして、工夫して力を合わせる態度、心身の成長に進んで取り組む態度の育成を図る ○資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善を図る。 ○互いを認め合いながら、共に生きる協働する態度の育成、思いやりの心の育成を図る ○地域や家庭と連携し、開かれた安全で信頼される学校づくりを推進する

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	自主・自立	①自己肯定感を高める学校・学級づくりの推進 ②主体性を育む特別活動の推進 ③目標を持ちあきらめずに挑戦する態度の育成 ④健康と体力の向上 ⑤防災・防犯教育の推進	・行事や委員会活動などで、子どもの考えを生かし、計画することで自分たちの思いを実現することを体験できるようにしていった。 ・子どもの声を生かした学年実行委員や高学年の委員会活動等、様々な活動の機会を作り、成果を上げたことで自己肯定感が高まっている。 （いじめ防止に向けた標語を全校で子ども主体で取り組んだり、学校安全マップづくりにPTA校外委員会の保護者と一緒に学区を回って作成したりするなど） ・プロセスを大切にした行事の工夫と実施を通し、挑戦することのよさや達成感を子どもたちが感じることができた。 ・川崎市制100周年事業と連動し、子ども達がアイデアを出し合い、記念行事を行うことができた。 ・感染症・熱中症対策の徹底を図り、継続した教育活動展開を目指した。 ・子どもの安全を最優先にした様々なケースによる防災訓練を計画し実行した。 ・子どもたちも参加する不審者対応訓練を中原警察署の協力を得て実施し、警察と連携しながら検	・自分のよさを生かし、なりたい自分をイメージすることに、全校で取り組む。 ・地域の良さを活かした横断した学習単元をさらに推進する。 ・ルールを守るだけでなく、子ども達が理由を考え、よりよくするための方法を考えて提案できるような活動をさらに目指す。 ・コミュニケーション能力の向上を目指す。ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れる。共生共育の充実。SOS研修の充実も図る。 ・訓練以外にも防災教育の充実を図る。自分ならどう行動するかを考える防災教育の充実を行っていく。 ・学校防災マニュアルに基づき、防災教育を計画的に行い、地域とも共有する。
2	質の高い学び	①資質・能力の育成に向けたカリキュラムの編成 ②主体的・対話的で深い学びの実践 ③かわさきGIGAスクール構想の推進 ④指導力・授業力の向上 ⑤読書活動の充実	・年間カリキュラムの編成を資質・能力の視点で見直し、地域性を活かした学習の展開（パンジー栽培活動・下小田中の歴史研究等）に取り組んだ。 ・国語の校内研究を通し、育成する資質能力を明確にしていった。見通しをもって学び、振り返る自己調整力を高めることに取り組み、成果を上げた。 ・主体的・対話的な授業改善について、教職員の意識と理解は進んできている。 ・児童会の代表委員会などでもギガ端末を子どもたちが活用できるようにしていった。授業や特別活動でも、自分たちの考えをスライドなどにまとめて発表し、お互いの考えの共有ができてきている。	・年間カリキュラムの実践を基に、地域の良さを活かし、練り上げていく。 ・校内研究を充実させ、育成する資質・能力の実現のための授業の在り方を研鑽し、授業改善を推進する。 ・学年会での教材研究がさらに充実するように時間の確保に努め、業務改善を図る。 ・読書活動の充実については改善の余地がある。子ども達一人一人にとって、いつも読みたい本がそばにあるという状況を作っていく。

3	共生・協働	①互いのよさや違いを認め合い、思いやる子の育成 ②支援教育体制の確立と推進 ③児童指導体制の確立と推進 ④基本的な生活習慣と規範意識の育成	・子どもの考えを生かし、話し合って実行することで互いの良さや違いに目をむけ、主体的に工夫して取り組むようになった。 ・児童支援に関して、COを中心にした組織的対応ができた。教育相談を充実させ、保護者との連携を図った。 ・入り込み・取り出し支援を行い成果を上げた。不登校児童や行動面で支援が必要な児童の対応を丁寧に行い、子どもの状況に応じて、ギガ端末の利用や教室以外の場所の活用など、多様な選択肢があることを伝え、実行していった。 ・教職員いじめ防止研修は継続して実施し、意識の向上につながった。児童指導の迅速な対応についてチームで対応することを徹底し、早期解決を目指し実行した。 ・生活目標を全校で共有し、成果を上げている。行動面で注意すべき事項については、ギガ端末を利用し、全校に周知することができている。	・行事や特別活動のプロセスを大切にし、子どもたちの主体性・協働性を育成する。それぞれの良さや違いを認めることによって生まれる活動を具体的に価値づけていく。自己選択できる活動を意識して増やしていく。 ・異学年交流を短時間で効率よく、かつ、質を上げて行うにはどのようにするか、子どもたちの自己肯定感と自信につながる活動を進めていく。 ・多様化する児童支援に対するニーズに対応するために、ケースごとの情報共有を進める。不登校に関わる課題に対しての各機関と連携した取り組みなど一層進めていく。 ・いじめ対応研修を継続し、教職員の意識を向上させる。 ・効果測定を学級づくり、児童指導と心の育成に生かす。継続した評価を行う。 ・チームでの迅速な対応例を紹介していくことで、学年内・校内での報・連・相の徹底を図る。
4	地域教育力活用・幼保小中連携・学校評価	①保護者や地域の教育力の活用 ②連携教育の推進 ③SDGsの取り組み促進 ④PDCAサイクルの確立 安全・連携・学校評価	・近隣保育園児を招き、1年生が小学校生活を紹介する活動が根付いてきた。幼保との連携事業を推進できた。 ・小1プロブレムの軽減化を目指し、スタートカリキュラムを実施している。中一ギャップの軽減化を目指し、中学校体験と丁寧な引継ぎを継続している。 ・地域学習材を活用した学校教育活動を進めた。 ・児童会活動や委員会活動など、特別活動においてSDGsの趣旨を子どもたちが理解し、自分ごととして取り組んでいる。	・幼保中の連携を無理のない互恵的な形を模索しながら継続・充実させていく。中学校の先生方とのお互いの授業参観を行っているので充実を図る。 ・保護者や地域協力者の理解を得て、家庭科の実習や栽培活動などでの協力をお願いし、地域の方々の力を活かした学習の展開を図る。また、地域人材活用リストを整えていく。 ・SDGsの一層の理解と行動を進める。 ・地域の花パンジー栽培に関する地域調べや栽培活動など行っている。今年度は校歌を題材にした単元開発に取り組んだ。定着を図る。
5	業務改善の持続	①能動的に機能する運営組織の確立 ②働き方改革を意識した業務改善への取り組み	・各部会を活性化し、教育目標に沿ってチームが計画したことをスピード感をもって実行するよう、また、各自の資質・能力が反映するよう組織力アップを図ってきた。教職員が運営組織の在り方を理解し、能動的に企画・実行がなされてきている。 ・勤務時間の適正化を図り、健康管理を意識した働き方を推進するために、休憩時間の確保・会議の精選と短時間化・そのための事前準備の在り方・C4thの活用など、具体的に取り組んだ。学級事務日（ノー会議デー）、短縮時程の効果的運用に取り組んだ。 ・クロムブックやC4thの活用を進め、会議の効率化と資料精選を図って業務改善とペーパーレスにおいて効果を上げている。 ・ほとんどの学年で教科担当制を取り入れていった。効果を検証し、一層進めていく。	・運営組織の在り方を粘り強く伝え、チーム学校を実現していく。 ・資料等のペーパーレス化を一層進める。 ・教科担当制の拡充を図り、学習効果を上げつつ、業務改善にもなるようにしていく。 ・カリキュラムマネジメントと働き方改革が、業務改善において重要であり、両者のバランスを保ち適正な改善をしていくには、教職員一人一人の意識の向上が重要であることを共有する。 ・教育目標実現のために必要なもの、見直すものを見極め、評価と指導の一体化を意識し、カリキュラムマネジメントを進める。

学 校 関 係 者 の評 価	学校運営のまとめ
○児童会の計画委員会児童の発表の感想 　楽しい学校にしようという思いのもとに一生懸命に取り組んだ子ども達の発表は内容もプレゼンテーションも素晴らしかった。今までの学習の軌跡を感じた。是非全校の子ども達に向けて伝えていってほしい。 ○教育活動全般を通して 　学校評価の中の「思わない」「やや思わない」の子ども達の思いを大切にすることを確認した。グループ交流給食開始、校外学習のバス問題、感染症状況、教職員配置の未充足問題、保護者の意識の変化など、学校のいろいろな情報を交流し、学校活動に評価をいただき、貴重な意見をいただいた。	・数年にわたったコロナ禍が子どもたちの心に少なからず影響を与えていると感じている。温かな学校の風土で、子どもたちが多様な感じ方や考え方を認め合い、安心して学校に通えるよう、様々な工夫を行う。 ・資質能力を育成するため主体的で対話的な授業づくりを加速させ、授業力の向上、授業改善に向けて、校内研究を充実させ研修を進める。 ・不登校対策等の児童支援・いじめ予防と対策に関する児童指導・社会性を育てる児童指導に力を入れていく。 ・安全教育、防災教育の充実を図る。 ・読書活動の充実。 ・授業及び授業以外での効果的なギガ端末活用を行い、子どもの情報機器活用のスキルアップとモラル向上を目指す。 ・働き方改革としてもギガ端末活用と校務PCの活用を一層進め、一層のペーパーレス化を図る。行事の見直しや教科担当制を含め、様々な取り組みを加速させる。 ・地域の学校としてのカリキュラムの充実を目指す。